

三井物産環境基金 2012 年度上半期 活動助成（復興助成・一般助成） 社外案件選定委員による総評

今回は、一次スクリーンを経た案件がかなり多く、それぞれが地についた活動であり、簡単に可否を決められるようなものではなく、しっかり読み込まないと判断できず、選定には苦労しました。それだけ非営利組織の活動が社会全体での重要性を増してきているということと、三井物産環境基金の知名度が上がってきたことの証と考えています。

現在、政府の迷走、決められないこと等に批判が集まっていますが、必ずしも日本だけではなく世界的な現象と考えています。これは、グローバル化が大きく進展し数百年間続いてきた国民国家の役割が大きくゆらいでいることと、地球環境問題の深刻度が破滅の寸前まできていることが原因であると考えます。そうした状況の中で、「公」というものを官僚が独占（星野東大名誉教授）してきた日本では、今後ますます非営利組織の活動が重要になることは間違いありません。寄付税制等の整備が不十分な日本であるからこそ、この基金の重要性が増しているものと考えます。

今回、助成対象から漏れた活動の多くも、当事者がやりたいことの熱意は理解できるものが多かったです。今回の結果は、汗水たらして働いている三井物産社員の方々にも、あなた方の浄財はこんな素晴らしいプロジェクトにつながっていますよという説明責任を感じ、甘さを排して検討した結果です。特に、「総額は絶対的にこの額以下ということは考えていない」という前提で選考にあたらせてもらっているので、逆に厳しくあくまで案件の内容で選定させてもらいました。

ではなぜ、選ばなかったものが多いのかということですが。

それは、やはりプレゼン能力の欠如があると思います。情熱だけで、活動しても次にどう繋がるかの冷静な分析もなく、「良いことだから」というだけでは、やはり助成の対象に選定することは難しいです。草の根の活動をできるだけ支援したいと考えている本稿執筆者としては、草の根の活動といえども、自己満足ではなく、社会的意義、社会全体への好影響の波及ということを考えてもらいたいと思っています。

草の根を超えた大型案件については、助成が確実ではない中で詳細な事業計画が立てられないという事情は分かった上で、なおかつ、アピールする内容を期待したいところです。明確な目的、活動内容、影響、発展の形、具体的な関係者の参画の真剣度、それなりの哲学、社会的意義、等が読み取れないと助成対象として取り上げることは難しいです。

結果として、選定した案件は申請件数に対しての比率は低いものの、意義のある案件を選定できたと自負しています。

助成団体には、その理想を実現するために助成金を有効に活用されることを切に願っています。